

高野中で育てたい力

対話力

主体性・積極性

自信

問題解決をするための基礎的な各分野での知識

庄原市立高野中学校 特別支援（知的）学級 英語科学習指導案

単元名：Program 6 “A Work Experience Program”

- 1 日時 令和元年 10 月 11 日（金） 2 校時（9:50～10:40）
- 2 学年 特別支援（知的）学級（男子 1 名 女子 1 名 合計 2 名）
- 3 場所 絆教室
- 4 単元について

(1) 単元観

中学校学習指導要領解説外国語編 第 2 章外国語科の目標及び内容 第 2 節英語 1 目標 (3) 話すこと[やり取り] アでは「関心のある事柄について、簡単な単語や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。」となっている。

本単元では、職場体験を通して由紀、武史、桃子が将来の夢について語る場面が取り上げられている。職場体験は 2 年次の夏にすでに実施しているので、本文の内容にも親しみやすく、実際に体験してみてわかった仕事の責任・つらさ・やりがいなどを交流できる単元でもある。

文法事項においては、to 不定詞(名詞的用法「～すること」want to, like to, hope to 等と目的を表す副詞的用法「～するため」と形容詞的用法「～するための……」)の形・意味・用法を理解し、表現することを目標としている。これらの文が使えることにより、行動する目的や理由を述べたり、自分の職場体験について語ることもでき、コミュニケーションの幅が広がることを期待できる。また、単元のまとめとして自分の将来の夢を書き、それを交流し合うことでお互いに刺激しあい理解を深めることにつなげたい。

(2) 生徒観

～省 略～

(3) 指導観

to 不定詞(副詞的用法・名詞的用法・形容詞的用法)は「to + 動詞の原形」の形をとり、比較的理解しやすい表現である。一般動詞の知識が必要であるため、この用法を学習する前に、既習の一般動詞を復習し、動詞の原形は書けるようにしておきたい。そのために授業の最初に単語や既習の基本文型を言い合うペアワークを継続して行う。

形容詞的用法「～するための……」や副詞的用法「～するために」では、できるだけ自分の生活や身近な

話題を扱い(共有化)理解を容易にさせたい。名詞的用法の“I want to ~”「~したい」や“I like to~”「~するのが好き」という用法は、自分に関して「自分のしたいことや好きなこと」(焦点化)を具体的に作文させ、この表現を理解させたい。

7月に「丁寧にものを勧める Would you like ~?」の学習で、場面を機内に設定しフライトアテンダントと乗客の会話を用いて、“Would you like something to drink?” “Yes, please. No, thank you.” という丁寧な表現を使って飲み物を勧めたり応えたりする実践的な対話を学習している。形容詞的用法「~するための……」の学習においても、導入で機内で「飲みもの(食べもの・読みもの・羽織るもの)がほしい。」ということ乗客が要求し、それにフライトアテンダントが応えるという場面設定をしたい。

単元を通して、導入では写真や絵・実物を提示(視覚化)したり、クイズを出したりして興味をもって学習させたい。そして本単元のまとめとして、将来の夢や仕事についてまとまりのある作文を、3つの用法を使って(焦点化)書き、お互いの夢について発表し合い(共有化)、お互いの理解を深めさせたい。書く活動については、スモールステップ「口頭でのドリル」→「語順理解(単語の並べ替えドリル)の確認」→「基本文型が正しく書ける」を用いて、めあてに到達させる。

Kさんには、自信を持って授業に臨めるように単語(動詞)の反復練習を継続して行う。自信のあることから質問し、興味のあるものを準備して答えやすくする。難しい発音では指導者が一緒に発音し、答えるのに英語が出ない時には日本語で答えるように促す。ペア活動は指導者がそばで見守る。

T君には、目を見て対話するようにする。ペア活動では顔を上げ相手を見て対話させる。相手に聞こえる声を出すことと、自分の考えは必ず言うように促し、努力した時にはほめる。興味のあるものを準備して答えやすくする。

5 大会主題との関連

～省 略～

6 単元の目標

(1) to 不定詞(名詞的用法・副詞的用法・形容詞的用法)の文の形・意味・用法を理解し表現できる。

【話すことア① 書くことエ②】

(2) 本文の内容を理解する。

【読むことウ② エ①】

(3) 自分の将来の夢や職業について考えたことを、まとまりのある英文で書き、発表することができる。

【書くことア②イ① 話すことア① 聞くことウ①】

7 単元の評価規準

	ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言葉や文化につい ての知識・理解
聞く こと			①聞いた内容について 大事な部分を聞き取 ることができる。	
話す こと	①学んだ表現を使って 積極的に話そうとして いる。			
読む こと			②書かれた内容につい て大意を読み取るこ とができる。	①働くことの意義を理 解する。
書く こと	②学んだ表現を使って 積極的に書こうとして いる。	① 学んだ表現を正し く使って思いを書く ことができる。		②語順を理解して正し く書くことができる。

8 指導と評価の計画（全9時間）

次	学習内容	評 価					
		関	表	理	知	評価規準	評価方法
1	・名詞的用法の理解	◎			○	ア①名詞的用法を使って積極的に 話そうという。 エ②語順を理解して正しく書くこ とができる。	観察 ワークシート 自己評価カード
2	・P53 の内容理解と音読 練習 ・名詞的用法の復習			◎	○	ウ②書かれた内容について大意を 読み取ることができる エ①働くことの意義を理解する。	自己評価カード
3	・副詞的用法の理解	◎			○	ア①副詞的用法を使って積極的に 話そうとしている。 エ②語順を理解して正しく書くこ とができる。	観察 ワークシート 自己評価カード
4	・P55 の内容理解と音読 練習 ・副詞的用法の復習			◎	○	ウ②書かれた内容について大意を 読み取ることができる。 エ①働くことの意義を理解する。	発表 自己評価カード

5	・形容詞的用法の理解 【本時】	◎			ア①形容詞的用法を使って積極的に話そうという。 エ②語順を理解して正しく書くことができる。	観察 ワークシート 自己評価カード
6	・P57 の内容理解と音読練習 ・形容詞的用法の復習			◎	ウ②書かれた内容について大意を読み取ることができる。 エ①働くことの意義を理解する。	発表 自己評価カード
7	・将来の夢についての作文	◎			ア②学んだ表現を使って積極的に書こうとしている。	ワークシート 自己評価カード
8	・将来の夢についての作文			◎	イ①学んだ表現を正しく使って思いを書くことができる。	ワークシート 自己評価カード
9	・将来の夢について発表	◎			ア①学んだ表現を使って積極的に話そうという。 ウ①聞いた内容について大事な部分を聞き取ることができる。	発表 自己評価カード

9 本時の学習

(1) 本時の目標

“I want something to ~” “～するためのなにかが欲しい” という表現を使ったゲームを通して、“something to + 動詞(原形)” の用法を理解し、機内を想定した対話活動をすることによって、実生活で “something to + 動詞(原形)” という表現が使えるようになる。

ねらい (本時の目標)	ねらいの評価方法「何が」「どのように」できたらよいのか
・ to 不定詞「形容詞的用法」 “something to + 動詞(原形)” の用法を理解し、自分の欲しいものを要求したり相手の欲しいものを理解したりすることができる。	・ something to + 動詞(原形)を使って自分の欲しいものを要求している。 ・ something to + 動詞(原形)を聞き取り、相手の欲しいものを理解している。
めあて (生徒の活動目標) 一板書提示—「山場」「ねらい」	山場 (足場)
・「～するためのもの」という表現を使って、どのようなものが欲しいのかを伝えることができる。	・「～するためのもの(なにか)」という表現の仕方が分かった。

(2) 授業UD化に向けた手立て (支援)

全体への手立て (◇)	支援を要する生徒への手立て (◆)	目標達成者への手立て (○)
・ 実際の物を見せて「形容詞的用法」を導入する。(視) (共) ・ 文型をカードにして提示する。(視) (焦) ・ カードゲーム (要求活動) を通して「形容詞的用法」を定着させる。(共) ・ 語順ドリルを行う(プリント) (焦)	・ 発音やカードゲームを行う時は、そばで見守り一緒に発音する。	・ カードゲーム (要求活動) がスムーズにできるように、“something to + 動詞(原形)” のパターンプラクティスを徹底する。

(3) 準備物

文型カード, 実物(飲み物, 食べ物, 読み物, 着るもの), カルタ, ワークシート, 自己評価カード

(4) 学習展開

	<p>学習活動 (予想される生徒の答え)</p>	<p>授業UD化に向けた手立て ◇全体への手立て ◆支援を要する生徒への手立て ○目標達成者への手立て</p>	<p>評価規準 (評価方法)</p>
<p>導入</p>	<p>1 あいさつをする。 2 基本文型と単語(一般動詞)の復習をする。 3 機内で乗客の4種類の要求文を聞き取り, 必要な物を選んで乗客に手渡す。 Excuse me, I want something to eat. I want something to drink. I want something to read. I want something to wear. 4 本時のめあてを確認する。</p> <p>「～するためのもの」という表現を使って, どのようなものが欲しいのかを伝えることができる</p>	<p>◇ペアでテンポよく進めさせる。 ◇something to ~ をしっかり聞き取らせ, 「何の種類」について説明しているのかを推測させる。(焦) ◇各種類3つ以上の実物を準備し, 交代で選ばせる。(視)</p>	<p>問題解決をするための基礎的な各分野での知識: 既習の一般動詞を口頭・筆記で復習させる。</p>
<p>展開 1</p>	<p>5 形容詞的用法を使った文の構成と意味を学習する。</p> <p>something to eat 食べもの(食べるためのなにか) to drink 飲みもの(飲むためのなにか) to read 読みもの(読むためのなにか) to wear 食べもの(着るためのなにか)</p> <p>自信: 4つの基本表現を覚えてスラスラ言えるまで口頭練習させる。</p> <p>6 形容詞的用法を使って, 必要なものを伝えたりそれに応えたりする。(ペア)(全体)</p> <p>A: I am hungry. So, I want something to eat. B: Sure. I have a cake. Here you are.</p> <p>対話力: 理由も述べてから欲しいものを要求したり, それに答えたりさせる。</p>	<p>名詞 to + 動詞(原形) ◇「something to + 動詞(原形)」 なにか ~ するための 後ろから訳すことを押さえる。(焦) ◇4つの基本表現を覚えるまで口頭練習させる。(焦) ◆正しく発音しているかどうかを確認し, 必要であればもう1度正しい発音を練習させる。 ◇対話がスムーズにできるように, A・Bのパターンを繰り返し口頭練習させる。(ペア)(焦) A: 理由を必ず1文付け加えて要求する。 B: 必ず返事をしながら物を渡す ◇対話してカードゲームを行う。(共)</p>	<p>形容詞的用法を使って積極的に話そうとしている。 (行動観察)</p> <p>形容詞的用法を使って積極的に話そうとしている。 (行動観察)</p>

山場	・「～するためのもの(なにか)」という表現の仕方が分かった。		
展開2	7 機内での対話活動を行う。 A: I am hungry. So, I want <i>something to</i> ~. B: Sure. I have ~. Here you are.	◇実際のものを使って、必要なものを伝えたり聞き取ったりさせる。 (ペア) (共)	
まとめ	8 本時のまとめ ○学習した文法の確認をする。 ○自己評価カードに記入する。	◇単語を並べ替えて1文にさせる。 (焦) ◇自分の理解度をしっかり確認し課題を記入させる。	語順を理解して正しく書くことができる。(ワークシート) (自己評価カード)

(5) 板書計画

Friday October 11th

めあて

「～するためのもの」という表現を使って、どのようなものが欲しいのかを伝えることができる

名詞 **to + 動詞(原形)**

something **to + 動詞(原形)** 「～するためのなにか」 = 「なにか～するもの」

なにか ～ するための

I want <i>something to eat</i>	私は 食べるためのなにか(食べ物) が欲しい	I am hungry.
<i>to drink</i>	飲むためのなにか (飲み物)	I am thirsty.
<i>to read.</i>	読むためのなにか (読み物)	I am bored/free.
<i>to wear</i>	着るためのなにか (着る物).	I am cold.

本時の流れ

greeting

shotgun

something to 動詞(原形)

カードゲーム

対話

並べ替え

振り返り